

片手で出来ることをしよう

4人から10人程度の演奏者のためのオーケストレイション・エチュード

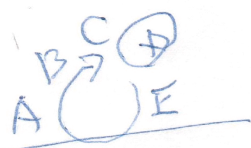
2005/10/10 しばてつ記

A. 合図

合図1.指で「1」を示し手を振り下ろす。

⇒状態1：順番にsoloの演奏を始める。

(誰から始めるのか、時計周りか反対か、も指示する。)

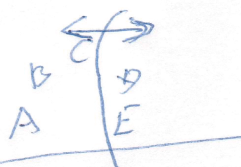


- ・例：メンバーDから時計周り
- ・合図の出し方：「1」、Dを指差す、時計回りを指で示す、手を振り下ろす。

合図2.指で「2」を示し手を振り下ろす。

⇒状態2：2つのグループに別れて交互に演奏し始める。

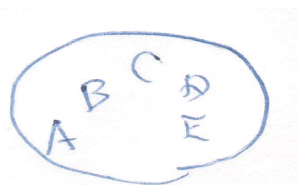
(グループ分けとどちらが先に音を出すのかも指示する)



- ・例：ABCとDEのグループに別れ、DEから演奏を始める
- ・合図の出し方：「2」、CとDの間に中空に線を描きグループ分けする、DEのグループを指して先に音を出すグループを示す、手を振り下ろす。

状態3.指で「3」を示し手を振り下ろす。

⇒状態3：全員の演奏を始める。



状態5.指で「5」を示し手を振り下ろす。

⇒状態5：お終い。

B. ルール

- ・どんな（非）楽器でも参加可能。
- ・演奏者は全員いつでも合図を出せる。
- ・どの合図も手を振り降ろした瞬間に別の状態へ移行する。
- ・片手のオーケストラ全体の音響を聴き自分の出す音、自分の出す合図の双方で演奏を発展させる。片手は自分の楽器の演奏用、もう片手は合図用（＝オーケストレーション用）なので、両手で演奏しているとも言える。
- ・「状態1」、「状態2」では、次の（別の）演奏者が演奏を始めた瞬間に今の演奏者は演奏を止める。

ルール補足

- ・お互いの合図が見えるように円形、半円形に並ぶ。
- ・演奏中は他の演奏者をよく見て、合図を見過ごさないように気をつける。
- ・合図はメンバー全員が了解できるよう明確に出す。
- ・誰かが合図を出したら一旦従う。すぐに他の演奏者が別の合図を出しても良い。
- ・この合図とルールを使って、他に何か制限を設けて演奏するのも面白い。例えば、音数を極度に少なくやろう、小さい音でやろう、特殊奏法だけでやろう、身ぶりが大きく音が小さい演奏をやろう、などなど。

english version =====

LET'S PLAY WHAT WE CAN PLAY IN SINGLE HAND
(ORCHESTRATIONS ETUDE)

A. Cues:

1. Solo (everybody plays in turn)
2. Divide into 2 groups
3. All members play

B. Rules:

- all (non) instruments are OK
- one hand plays instrument, other hand shows cue
- all members can show cue whenever
- listen to the whole sound and operate orchestration to make it interesting
- at every cue, next music section starts at the moment when hand is taken down
- both for solo and when group is divided into 2 groups: when next player or group starts, the first player or groups stops.

appendix 1

some example of single hand playing 片手の演奏例

- ・ピヤニカ：ホースで吹き、右手で鍵盤を押す。左手で合図。
- ・サクソ、オーボエ、リコーダなど：
口と左手のみで演奏。限られた音域。
右手はいつでも合図が出せるよう待機だが少しは楽器の穴を塞ぐことに使っても良い。
- ・トランペット：左手で楽器を支え、倍音列のみの楽器。
右手は合図用だがたまにはピストンを押したりミュートを替えたりに使っても良い。
- ・歌手、ボイス奏者：両手とも合図出し放題。
- ・バイオリン、ビオラ
 - 1) 左手を合図用にして、右手で弓を持つ、開放弦だけの楽器、変則チューニング
 - 2) 左手を合図用にして、右手で弓を持たない、ピチカート専用楽器。
 - 3) 弓を持たない右手を合図用にして、左手でピチカート専用楽器。
- ・ティンパニ：片手に2本のマレット、足はペダル、もう片手は合図用だがたまにはミュートなどに使っても良い。
- ・琴：爪をつけてない左手が合図用。たまには押し手を使っても良い。

appendix 2

history of this composition この曲の由来

私は、1993年「JOHN ZORN'S COBRA 東京作戦～大友良英部隊」で、コブラを演奏したが複雑すぎて覚え切れなかった。その後「プノイペンソン・リアルタイム・オーケストレーション・ワークショップ」を主宰し、1995年～99年まで16回行なった。そこへ、ベーシスト今沢カゲロウが、大友良英の「モスキートペーパー」にインスパイアされたサインの体系を持って来た。そのカゲロウサインを更に単純化して、異なるメンバーで数十回は演奏して来た。口頭の説明のみでも1～2分で直ぐ演奏できた。題名は最近命名した。